

【筑波大学附属大塚特別支援学校 小学部】「はなれていてもつながろう ～家庭と学校～」

1. つながるための基本的な姿勢

- 1-1 学校という場を介さずとも機能的につながるための方法を考えよう
- 1-2 保護者の負担が少なくかつ効果的な学習保障の方法を考えよう
- 1-3 児童や保護者の不安や困りに寄り添える方法を考えよう
- 1-4 ステイホーム中でも多様性があり自由度が高い教育活動が展開できる方法を考えよう
- 1-5 As Soon As Possible!!

2. つながるための環境構築

- 2-1 保護者用小学部メーリングリストの2020年度設定と運用開始
- 2-2 学級用メールアドレス新設→即運用
- 2-3 学級用メーリングリスト新設→即運用
- 2-4 インターネット環境についてのアンケート実施
- 2-5 オンライン教育実施の案内周知
- 2-6 zoomの準備・接続テスト保護者会の実施
- 2-7 タブレット・wifiルータ貸し出し希望調査と貸し出し実施

3. 実施した活動報告

- 3-1 各家庭との電話連絡によるやりとり、健康状況の確認など
- 3-2 家庭学習用教材（実物教材・DVD・プリント・教科書・日課表）の送付やHPでの情報伝達
- 3-3 youtubeを使って動画配信①校歌や学校の歌②教員自己紹介③家庭学習用動画（国語・算数・生活・体育・造形等）
- 3-4 メールフル活用、メーリングリストによる投げかけ、情報伝達、活動内容を紹介し深める学級便り発行・関連情報のダイレクトリンクを提供・家庭からのフィードバックの受信

- 3-5 相互通信のオンライン教育活動の実施<zoom活用>（朝の会、学級保護者会・個人面談・1年生支援・学部保護者会・保護者サロン提供・分散登校期における登校児童と在宅児童との共同学習など・オンラインの活動は録画も提供し多様な取り組みスタイルを保障）

4. 考察

- 4-1 画面を通してであっても子供たちの活動する姿や発する言葉、様々な反応によって教師はよりよい活動になるよう考えることができた。
- 4-2 各家庭の協力的な姿勢と率直な意見が、ニーズの見極めと活動の位置づけの根拠となった
- 4-3 はじめに教員同士が遠隔でもつながる環境を早々に構築できたことで意思決定・役割分担が効率的になり、オンライン学習を含む休校中の家庭支援の環境構築実現に大きく寄与した
- 4-4 これらを支える管理職のおおらかなサポート体制により円滑に準備と実践することができた



図1 オンラインあつまり
(5・6年高学年)



図2 分散登校中の登校児と在宅児童の共同学習(うんどう) **6月**

項目	(1)臨時休校中の取組(児童の状況把握と家庭との連携・ICTを活用した家庭学習支援) (2)学びの保障のための取り組み(指導事項の精選)など
取組が掲載されているHPのURL	http://www.otsuka-s.tsukuba.ac.jp/page2_2.html?eid=00018